

- 季節の花：ネコヤナギ・ガーベラ
- コラム：春植物
- 情報：花のイベント

# ふらっとふらわーず ニュース

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2016春号：第14号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

## 季節の花

### ★【ネコヤナギ】 ヤナギ科ヤナギ属

他のヤナギ類の開花よりも、少し早く花を咲かせることから、**春の訪れ**を告げる植物の1つとしてなじみ深い樹木です。歌謡曲にも春を表現する詩として度々登場します。愛らしい形の**花穂**（かすい1本の長い花軸に、小形の花が多数穂状についているもの）で、この花穂を**猫のシッポ**に見立てて、ネコヤナギの名前があります。花穂は太めの円筒状で**綿のような**美しい毛で覆われています。雄花と雌花が異なる株に生じる**雌雄異株**（しゅつしゅ）で、3月4月になると花が咲き始めます。咲くと言っても目立つような花びらはなく、雄花は先端にオレンジ色の葯（やく）花粉を入れる袋）のついた長い糸のような雄しべがたくさんあらわれ、葯が開くと黄色い花粉が出てきます。雌花は先端が黄色っぽい短い糸のような雌しべが付きます。生息地は、北海道や本州等、日本全土の山裾、野原、溪流や水辺で、河川の土手など、**湿り気があり水はけと日当たり**の良い場所に**古くから自生**する落葉性の樹木です。古くは**万葉集**の中においても、川楊（かはやぎ）と呼ばれるネコヤナギについて詠われたものがある程です。また**漢方**として、その樹皮や細根を乾燥したものを煎じ、1日5グラムから10グラム程度を飲むと、**解熱効果**があるとされています。ヤナギ科には有効成分として、その樹皮部分に特に多く含まれる**サリシン**という物質が知られています。この物質は、現在世界で最も多く使われている医薬品である**アスピリン**の母体となったものです。



ネコヤナギの花

同じく春に咲き「ヤナギ」とつく名前の春の花に「ユキヤナギ」がありますが、これは「バラ科シモツケ属」です。「ユキヤナギ」の名は、**葉がヤナギに似て**、白い多数の花が、**雪をかぶったように**見えることからつけられました。日本が原産国と言われている、枝垂れた枝先の長い穂に、たくさんのお花を咲かせて、花壇や公園によく植えられています。似たような花に「コデマリ」もあります。これも「バラ科シモツケ属」で、古く中国から渡来し、江戸時代初期から観賞用に栽培されてきました。和名は花の集まりを、**小型の手まり**に見立てたものです。他にも「ヤナギ」と名前が付く「**ユキヤナギ**」「**ヤナギラン**」なども、実はヤナギ科ではありません。**枝垂れた枝や葉の特徴が似ている**と「ヤナギ」の名前が付けられることがあって、それだけヤナギ類が古くから親しまれている証なのでしょう。

### 花言葉

ネコヤナギ「努力が報われる」/ユキヤナギ「愛らしさ」/「コデマリ」優雅（hananokotoba.com）  
（参考：趣味の園芸、ヤサシイエンゲイ、育て方ボックス）



コデマリ

ユキヤナギ

### ★【ガーベラ】 キク科・ガーベラ属

明るい雰囲気を持つ花で、春と秋に多く開花します。ガーベラの歴史は意外に浅く、今から約**100年前**の1878年に**南アフリカ**のトランスバル地方で発見されたのが起源と伝えられています。その後、イギリスやフランス、オランダなどに広まり、様々な品種が誕生したそうです。日本には**明治末**に渡来しました。原種は**ヤマソニー**は赤色で花弁が細く、枚数も少ないのですが、ほかのいくつかの原種との交配により、多数の園芸品種が育成され、毎年のように**新品種**が生まれています。ガーベラの学名「**GERBERA**」は、発見者であるドイツの**自然学者** **ゲルバー**の名前に由来しています。切り花は花首が曲がりやすいので、花を長持ちさせるには、水切りをし、茎から腐るので、花瓶の水は少なめにしましょう。



### 育て方

**栽培環境**：十分な日照のある温暖な気候を好みます。鉢植えも半日以上は日光の当たる場所で管理しましょう。  
**水やり**：用土の表面が乾いたら、たっぷりと与えます。水はけをよくしておいて、水切れさせないことがポイントです。  
**肥料**：鉢植えでは、植えつけ時に元肥として緩効性の粒状肥料と苦土石灰を用土に混ぜて施し、定期的に追肥しましょう。  
**ふやし方**：春か秋に株分け。タネは寿命が短いので、早めに春か秋にまいて育てます。

### 花言葉

「神秘」「我慢強さ」「親しみやすさ」（hananokotoba.com）  
（参考：趣味の園芸、JAひまわり）

## コラム

### 「春の妖精」の戦略 - 春植物

**春植物**（はるしよくぶつ）は、**スプリング・エフェメラル**（Spring ephemeral）の訳で、**春先に花をつけ**、夏までに葉を落す、**あとは地下で過ごす**一連の草花の総称で、直訳すると「**春の儚いもの**」「**春の短い命**」というような意味で、「**春の妖精**」とも呼ばれます。ユキワリイチゲ、アスマイチゲ、イチリンソウ、ニリンソウ、フクジュソウ、セツブンソウなどで、その代表が「**カタクリ**」です。早春にほかの草木に**先駆けて**芽生え、花を咲かせると、ほかの植物が大きくなる**初夏**には**休眠**に入ってしまう。そのため、地上部は**春の3か月間**ほどしかありません。しかし、秋には地下で根が伸びて発芽の準備を整えています。いずれも**小柄で地下に根茎や球根**を持っているほか、**花が大きく、華やかな色彩**を持つものが多いです。



カタクリ

小柄であることは、まだまだ寒い時期であり、高く伸びては**寒気に耐え難い**事とともに、**花に力の多くを割いた結果**とも考えられます。また、地下に根茎や球根を持つのは、**気温も低く、光も強くない春先に素早く成長し**、まず花をつけるために必要な事であると考えられます。

春植物は、**温帯の落葉広葉樹林に適応**した植物で、**冬に落葉した森林**では、**早春**にはまだ葉が出ていないので、**林床**（森林の地表面）は**日差しが十分**に入ります。この明るい場所で花を咲かせるのがこの種の植物で、やがて樹木に新芽が出て、若葉が広がり始めると、次第に林内は暗くなっても、**夏まではやや明るい**ので、この光が十分にある間に、それを受けて**光合成**を行い、その栄養を地下に蓄えます。また、春植物は**虫媒花**（主として昆虫を媒介して受粉を行う花）で、春の早い時期に活動を始める**少数の昆虫**がその媒介を行います。大柄な花をつけるのは、それほど数の多くない活動中の**昆虫の目を引く**ためだと考えられ、**マルハナバチ**の冬眠から目覚めたばかりの**新女王蜂**や、低温環境下でも活発に活動できる**ハナアブ科のハエ**類が多く、例えばカタクリやエゾエンゴサクの花は、マルハナバチの**新女王蜂に受粉を依存**しており、フクジュソウの黄色の皿状の花は、典型的なハナアブ類に適応した花の形態を示しています。春先のみ成虫が出現する**昆虫**のことも「スプリング・エフェメラル」ということがあります。

また、カタクリやフクジュソウの**タネ**には**エライオソーム**という塊がついていて、これには**脂肪酸や高級炭水化物**などが大量に含まれます。これを好物な**アリ**がいて、**種子を巣まで運んで**くれます。巣に運ばれた種子は、**エライオソーム**だけがアリの餌になり、**種子そのものは不要なものとして巣の外に捨て**られます。そして**広く遠く種を広げ**ることが出来ます。**子孫を残す**ための「春の妖精」たちの**戦略**です。

（参考：趣味の園芸、Wikipedia）



フクジュソウ



マルハナバチ

ニリンソウなど

## 情報

### 花のイベント

（事前にお確認ください）

- フラワーフェスティバル2016
  - 3月17日（木）～5月22日（日） 国営昭和記念公園
  - 第26回2016 日本フラワー&ガーデンショウ
    - 4月22日（金）～24日（日） パシフィコ横浜
  - 第18回フラワーフェスティバル由木
    - 4月30日（土）・5月1日（日） 京王南大沢駅周辺
  - 旧古河庭園 春のバラフェスティバル
    - 5月7日（土）～5月31日（火） 旧古河庭園